

名詞句の照応と代詞

——接近可能性理論 Accessibility theory の観点から——

若 森 幸 子

0 はじめに

本稿は、中国語テキストの照応における、代詞の用いられ方の規則性を探るものである。テキスト内で、すでに言及されている人物、事物に再び言及する場合、その照応の形としては、同形の名詞句を繰り返す、同義の名詞句を用いる、省略形を用いる、人称代詞“他、她、它”を用いる、“这+名詞句”“那+名詞句”で指示する、ゼロ代名詞を用いるなどの選択肢がある。これらの中から、どの形を用いるかを、書き手（話し手）は選択しながら書いて（話しているわけだ。

照応詞の選択決定には、Ariel (1990) などによる接近可能性理論が寄与していると筆者は考えるので、いくつかの中国語テキストにおいてこの理論を応用し分析したい。代詞の用法としては、テキスト内の指示的用法であり、代詞は、人称代詞“他、她、它”（以後 ta と記す）と、指示代詞“这”を扱う。

1 中国語テキストにおける照応の形

本稿で取り上げる照応の形を提示し、あわせて問題提起を行う。ここで取り上げる照応の形は、1.1～1.4 までの4種類である。

1.1 名詞句——这+名詞句

先行する名詞句を、指示形式付きの名詞句（以後“这+名詞句”と記す）で特定する形。

例 (1) を見ていただきたい。二つの下線部は、同一指示であり、最初の下線部は先行する名詞句で、2番目の下線部は“这+名詞句”（ここでは、名詞句が一部省略された形¹⁾）になっている。

- (1) 阿根廷南部丘布特省里瓦达维亚海军准将城的一家超级市场 23 日下午失火，造成一人死亡、50 多人受伤。

达家超市位于该城中心，当日下午 1 点 30 分大火从顶部开始燃起，浓烟达 15 米高，一处屋顶坍塌。(阿根廷一超市失火造成多人伤亡 新华社布宜诺斯艾利斯 11 月 3 日电 1999)

- (2) においても同じく、先行する名詞句“会晤”が 2 回くり返され、次の照応詞は“这次首脑会晤”であり、“这+名詞句”になっている。

- (2) 朝鮮国防委員会委員長金正日和韓国大統領金大中 13 日在平壤举行了会晤。

据此间新闻中心提供的消息，金正日在会晤中说，北方和南方“是一个民族”。北方人民“非常欢迎金大中总统来访”。他说，金大中的访问是个“勇敢的行动”。北方人民“没有理由不欢迎金大中总统的来访”。

金正日说，这次首脑会晤“创造了一个很好的先例。根据这个先例，今后可以解决所有问题”。他还说：“6 月 13 日将永远被记录在历史上”。(新华网汉城 6 月 13 日专电 记者高浩荣)

1.2 这+名詞句——裸の名詞句

1.1 のように、導入された名詞句を“这+名詞句”で指示するのは、よくあることと考えられがちだが、これと一見反対に見える“这+名詞句”で言及されているものを裸の名詞句で言及し同一指示という場合がある。例 (3) (4) では、それぞれ二つの下線部は同一指示であり、先行詞は指示形式付の名詞句(すなわち、テキスト中では、最初の言及ではない)、照応詞は指示形式のつかない裸の名詞句である。“此次”は、指示形式として、ここでは“这+名詞句”と等しく扱う。

- (3) 这次会晤是在金大中下榻的百花园国宾馆举行的。会晤进行了 27 分钟。

- (4) 据雅典通讯社报道，此次地震震中位于雅典东北约 20 公里处，地震导致雅典市内十多幢房屋倒塌，一些汽车被砸坏。

1.1 と 1.2 を見比べると、逆の現象が起きているかに見える。なぜ 1.1 でもよ

く、なぜ1.2でもよいのか？どちらでもよいのか？これを、ひとつ目の問題提起とする。

1.3 名詞句——同形名詞句の繰り返し

これは、先行する名詞句に対し全く同形の名詞句を繰り返すことにより、同一指示を行う方法である。(5)(6)共に、下線部は同形の名詞句の繰り返しである。

(5) 1992年克林顿在竞选总统时曾强烈抨击当时的布什总统不顾国内经济形势陷入萧条而热衷于出国旅行，不想克林顿自己当上总统后却有过之而无不及。(南方日报日1999-11-24)

(6) 五十年代，在湖的上游桦甸市一带就有“水怪”多次出现。一九八二年以来，人们也多次发现“水怪”的出没。(吉林松花湖和长白山天池“水怪”频频出没 新华社长春9月7日电1999)

1.4 名詞句——ta

これは、先行する名詞句をtaで指示する例である。

(7) 同时，克林顿在国外访问的时间有近200天，比他的任何一位前任都要多。(南)

(8) 地处中国东北中部的吉林松花湖，最近又有“水怪”频繁出没。由于它的出现，游人们已不敢到湖里游泳，几个湖边浴场已冷冷清清。(吉)

1.3と1.4においては、名詞句が繰り返されたりtaで指示されたりしている。

(5)(6)でtaの使用がなく、名詞句が繰り返されるのはなぜか？(7)(8)で、照応詞が、先行詞と同形の名詞句でないのはなぜか？これを二つ目の問題提起とする。これらの問いに、接近可能性理論 (Accessibility Theory) で答えていきたい。

2.0 接近可能性理論 (Accessibility Theory) とは何か

照応詞に代名詞が使われる場合について、K. V. Hoek (1997) は、「代名詞

の先行詞は、代名詞の出現する文脈内で十分に目立つもの、はっきりと際立っているものでなくてはならない」と述べている。もし、指示対象が思い浮かばない、先行詞を特定できないような時は、代詞は使うことができず、人名や、あるいはほかの描写的な名詞句を使わなくてはならない。テキスト中で三人称代詞を使う時は、それが、誰、何を指すのかが、読み手に分ると、書き手は考えていると言えよう。たとえば、“他”を使う時は、その指示対象がすぐ思い浮かぶ、その先行詞が1つと特定できる時のみである。Ariel (1990) により提唱された接近可能性理論 (Accessibility Theory) では、これを、代名詞が使われる時の指示対象は、接近可能性が高く、名詞句 (full noun phrase) が使われる時の指示対象は、接近可能性が低いと考える。指示対象がすぐ思い浮かぶ、また1つに特定できている時は、それに接近しやすく、その時、代詞 ta が使えると言うことになる。

また、Ariel (1990) は、指示対象の相対的接近可能性を決定する要素として次の4点をあげている。

- a. 距離 Distance : 先行詞と照応詞の距離
- b. 競合性 Competition : 先行詞たりうる候補の数
- c. 顕著性 Saliency : 先行詞が目立っているか、主としてトピックかそうでないか
- d. 統一性 Unity : 先行詞が、照応詞と同じフレーム／世界／視点／部分／段落にあるかどうか

a 距離は、先行詞が照応詞の近くにあれば、接近可能性 (accessibility) が高い、b 競合性は、先行詞となりうる候補が、1つであれば接近可能性は高く、2つ以上あれば低い。c 顕著性は、トピックであれば接近可能性は高く、そうでなければ低い、d 統一性は、おなじ段落や部分の中に先行詞があれば、接近可能性は高く、そうでなければ低いと説明できる。

さらに Ariel (1990) は、さまざまな名詞の指示形式 (ゼロ代名詞、代名詞、描写的名詞句、指示詞など) が、先行詞の接近可能性の高低に対応して、階層関係を成していることを統計的に実証した。照応詞の指示形態が、先行詞の接

近可能性の高低に対し、どのように並んでいるかは、言語により正確な等級 (degree) は違うが、共通して言えるのは、代名詞は、相対的に接近可能性が高いマーカー (High Accessibility Marker) であり、指示対象が非常に復元しやすいときに用いられ、名詞句は、相対的に接近可能性が低いマーカー (Low Accessibility Marker) で、指示対象が復元不可あるいは、難しいときに用いられる (K. V. Hoek1997) ということである。

では、代名詞と名詞句以外の指示形式は、中国語テキストでは、どのように並ぶのであろうか？

中国語での、先行詞の接近可能性の高低に対する、照応詞の指示形式相互の相対的な階層関係は、山崎 (1994) が提示している。それによると、名詞句のうち“裸の名詞句”を、“这+名詞句”と三人称代名詞との間においている。それは、“裸の名詞句”が、“这+名詞句”より情報量が少なく、明白性においては劣ると言う理由からである。

(9) 三人称代名詞>裸の名詞句>这+名詞句 (山崎 (1994) より)

これを接近可能性のスケールと呼ぶことにする。このスケール上に並んでいるのは、照応詞の指示形式であり、左に行くほど接近可能性が高い時に使われる、つまり先行詞が近づきやすいものであることを示す。3.0では、このスケールを用いて、考察を進める。

3.0 接近可能性 Accessibility を用いて、照応の形式を整理する

先に述べた接近可能性 a～d までの要因は、中国語テキスト中で、照応詞の選択された理由の考察に、極めて有効だと筆者は考えている。そこで接近可能性の観点からテキストの照応現象を分析してみる。

3.1 同形名詞句繰り返し型の照応

次の例を見ていただきたい。これはテキストの全文であり、アンダーラインは、“克林顿”と同一指示の名詞句、ゴチックの数字は、見出し及び文につけた番号である。

(10) 1 克林顿出国创记录

2 据美国《纽约时报》援引白宫的一项记录报道，克林顿在担任总统期间，频频出国访问，是美国历届总统中出国次数最多的总统。

3 据统计，克林顿本月初前往挪威首都奥斯陆参加纪念以色列前总理拉宾的活动是他总统任期内的第 44 次出国，这一次数几乎是前总统里根和布什任期内出国次数的总和。4 而且，克林顿在他目前进行的欧亚之行结束后，他访问的国家累计达到 63 个，将打破前总统布什创下的出访 60 个国家的记录，成为美国历史上出访国家最多的国家元首。5 同时，克林顿在国外访问的时间有近 200 天，比他的任何一位前任都要多。

6 1992 年克林顿在竞选总统时曾强烈抨击当时的布什总统不顾国内经济形势陷入萧条而热衷于出国旅行，不想克林顿自己当上总统后却有过之而无不及。7 据统计，克林顿不但是出国次数最多、在国外逗留时间最长的美国总统，而且还是随从最多、旅行花销最大的美国总统。（中国国际广播电台供稿南方日报 1999-11-24）

このテキストの、アンダーラインの部分をもとに抜き出してみると次のようになる。

2 克林顿

3 克林顿——他

4 克林顿——他——他

5 克林顿——他

6 克林顿——克林顿自己

7 克林顿

2 “克林顿”は導入の形で、その後 3、4、5、6 と文ごとに“克林顿”がくり返されているのが分る。そこでこれを「同形名詞句くり返し型」とよぶことにする。“克林顿は、(9) のスケール上では、裸の名詞であり²⁾、接近可能性は、这+名詞句より高く、三人称代詞より低い、中程度のマーカーである。

さて、文 3、文 4 それぞれで、文を 1 つのまとまりと考えその中を見ると、“克林顿”が先行詞となり、照応形には ta が用いられている。ta はスケール上では、裸の名詞句より接近可能性の高いマーカーである。なぜここで、接近可

能性の高いマーカースが使えるのかを考えてみよう。それは、接近可能性を決定する要素d統一性によるものと考えられる。つまり、先行詞“克林顿”が同じ部分（ここでは文）の中にあるので、接近可能性が高くなり ta の使用が可能になったのである。

つぎに、文3の最初の下線部“克林顿”が、なぜ“他”ではないのか... という理由を考えてみよう。文2の“克林顿”を先行詞として、文2には、先行詞たりうる候補者はほかになく、かつ“克林顿”は、話題の中心人物であるから、文3において、初めから“他”を用いても、指示対象の特定に曖昧さがあるとは思えない。しかし、文3では、まず“克林顿”が使われている。これは、文、さらに段落が変わったため、要因d統一性からはずれ、接近可能性が低くなったとしか考えられない。

文4、“克林顿”は、文3に“前总统里根和布什”があるので、要因b競合性により接近可能性が低くなり、ta は使用不可である。文5においては、要因dにより初めに“克林顿”が使われ、文内の照応に ta が使われている。文6の初めの“克林顿”は、文3と同じく、段落が変わったため、dの要因統一性からはずれ接近可能性が低くなったのである。2番目の“克林顿”が ta ではない理由は、同文内に“布什总统”があり、b競合性の要因から接近可能性が低くなったと考えられる。

もう1例見てみよう。次の例では、“水怪”の導入のあと、おなじ段落内にある文3では、接近可能性が高くなっているので ta が使われている。文16では、段落が変わり、要因d統一性から外れるので、同形名詞句がくり返され、“水怪”が使われている。文17で、再び“水怪”がくり返されているのは、文頭の“一九八二年以来”のために、文16とは違うまとまりになったためだと考えられる。時間の境界が、あるまとまりと次のまとまりの境界であることは、すでに山崎(1994)で指摘されている。同じ時間内にないということが、やはり、要素d統一性を低め、段落が変わったのと同じ指示形式、裸の名詞句が選択されたと考えられる。文18は、17と同じまとまりの中なので、接近可能性が高くなり、ta が使われた。

(11) 1 吉林松花湖和长白山天池“水怪”频频出没

2 地处中国东北中部的吉林松花湖，最近又有“水怪”频繁出没。3 由于它的出现，游人们已不敢到湖里游泳，几个湖边浴场已冷冷清清。

(中略)

16 五十年代，在湖的上游桦甸市一带就有“水怪”多次出现。17 一九八二年以来，人们也多次发现“水怪”的出没。18 但由于距离较远，始终看不清它到底是个什么东西。(新华社长春9月7日电 记者王景和 周长庆)

名詞句繰り返し型の特徴として、

・まとまり ((10) では文, (11) では段落) の冒頭では、名詞句が繰り返されている

・まとまりの中は、三人称代詞 ta が用いられている
ということが言える。

1.0 でみた (5) (6) では名詞句がくり返され、(7) (8) では、ta で指示されている理由が接近可能性の観点で明確になったと思う。

3.2 指示詞付き名詞句型の照応

2 番目の照応の形として、「指示詞付き名詞句型」と名づけたものをみていただきたい。これは、3.1 であげたものと違い、まとまりの冒頭に、同形名詞句のくり返しではなく、指示詞付きの名詞句が用いられる。

(12) 1 希腊发生强烈地震

2 当地时间7日14时56分，希腊首都雅典附近发生了里氏5.9级的强烈地震。3 据初步统计，已经有4人在地震中死亡，数十人受伤。

4 据雅典通讯社报道，此次地震震中位于雅典东北约20公里处，地震导致雅典市内十多幢房屋倒塌，一些汽车被砸坏。5 惊恐的人群纷纷逃离住所，聚集到大街上和公园里。6 地震后一个多小时内又发生了十多次余震。

7 据悉，这次地震是1981年以来希腊发生的最强烈的一次地震。8 希腊总理西米蒂斯已紧急召集有关部门开会，研究当前局势。(新华社雅典9月

7日电 记者张永兴)

2 地震 (導入の形) ——3 地震 段落ごとに示した

4 此次地震——地震——6 地震

7 这次地震

文2で、“地震”が導入され、段落のまとまりごとに見ると、文4、文7共に、段落の初めで、“这+名詞句”の形になっている。文7の“一次地震”は照応ではない。(9)のスケールで、接近可能性の低いマーカー、つまり、目立ち度の低い、つかまえにくい先行詞と照応するマーカーであることを確認していただきたい。段落のまとまりの中をみると、文3“地震”、文4“此次地震”のあとの“地震”、文6の“地震”は、“这次”の付かない裸の名詞句の形になっている。これは、d統一性の要因により、段落のまとまりの中にあるので先行詞に接近しやすく（接近可能性が高く）なっていると考えられる。そこで、“这+名詞句”より、接近可能性の高いマーカーは何かと(9)のスケールをみていただくと、「裸の名詞句」であり、ここではそれが使用されている。

もう1例見てみよう。

(13) (導入部省略)

金正日说, 这次首脑会晤“创造了一个很好的先例。根据这个先例, 今后可以解决所有问题”。他还说:“6月13日将永远被记录在历史上”。

(一段落省略)

这次会晤是在金大中下榻的百花园国宾馆举行的。会晤进行了27分钟。朝鲜最高人民会议常任委员会委员长金永南和金大中的主要随行人员参加了会晤。

(後半省略) (朝鮮首脳挙行会晤新华网汉城6月13日专电记者高浩荣)

このテキストにおいては、導入の後、各段落の冒頭で“这次首脑会晤”、“这次会晤”が使われ、(12)の例と同じく、“这+名詞句”の形である。裸の名詞句“会晤”も、使われているが、それは、“这次会晤”を先行詞とする段落の中だけである。(9)のスケールで、裸の名詞句“会晤”は、“这+名詞句”より、接近可能性が高いマーカーであることを確認していただきたい。すなわ

ち、段落というまとまりの中では、先行詞“这次会晤”へ接近しやすくなっているため、接近可能性の高いマーカーをつかうことができ、“这次”が不要なくなると言えよう。

指示詞付き名詞句型の特徴として、

- ・まとまり ((12) (13) では段落) の冒頭では、“这+名詞句”で照応している
- ・まとまりの中は、裸の名詞が使われている
ということが言える。

1.1 であげた例 (2) と (3) で、まるで逆に見えた照応の形も、まとまりの外と中の接近可能性の違いを考えて、規則的に整理することができた。

3.3 人称代詞 ta と指示代詞“这+名詞句”

3.1 と 3.2 で見た同形名詞句繰り返し型と、指示詞つき名詞句型と接近可能性の関係を、代詞の側からみると次のように言える。

まず、三人称代詞 ta は、

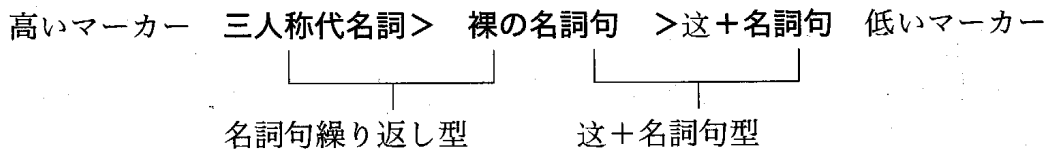
- ・接近可能性の高いときのマーカー (High Accessibility Marker) であり、すなわち、極めて接近しやすい、目立ち度の大きい先行詞に対して照応詞となるので、テキスト内では、あるまとまりを超えて指示をすることができない。
- ・まとまりをこえて指示対象に接近するときは、三人称代詞より接近可能性の低い裸の名詞句 (相対的な Low Accessibility Marker) が用いられていた。

这+名詞句は、

- ・接近可能性の低い時のマーカー (Low Accessibility Marker) なので、まとまりを超えて、前のまとまりの中にある指示対象に接近することができる。これは、段落ごとの“这+名詞句”のくり返しとして現れていた。
- ・这+名詞句は、それがああるまとまりの中で先行詞となるとき、照応詞に

は“这+名詞句”より接近可能性の高い 裸の名詞句（相対的な High Accessibility Marker）が用いられていた³⁾。

「同形名詞句繰り返し型」と「这+名詞句型」それぞれに、使用されていた名詞句の指示形態を、接近可能性のスケール上で線で結ぶと、次のようになる。



ここから、両方の型に統一的にいえることとして、テキスト中のあるまとまりの中と外では、接近可能性の高さが違い、中では高く、外に対しては低いので、それにしただって使われる照応形が選ばれている。まとまりの外にある先行詞に対して使われる照応形は、中で使われる照応形より (9) のスケールでは左側になる。

3.4 まとめ

以上、中国語テキストの照応と代詞について、観察し考察を加えた。中国語テキストにおいても、接近可能性の違いにより、照応詞の指示形式が選択されているということを示すことができたと思う。

〈資料〉例文は全て、新華通信社：<http://www.xinhua.org/> による。

〈注〉

- 1) “这+名詞句”における名詞句の形式には、さまざまなものがある。(1)の 一家超级市场→这家超市 (2)の 会晤→这次首脑会晤 は、厳密には同形ではなく、一部同形型（徐赳赳 1999 による）と言えよう。しかし、ここでは、名詞句に指示形式がつくかどうかを問題にするので、名詞句の同形／一部同形については区別をつけないで扱う。
- 2) “克林顿”は、固有名であるが、筆者は固有名と普通名詞の、照応におけるふるまいには、接近可能性の違いはあるが、本質的な差はないと考えている。したがって、“克林顿”を裸の名詞として扱う。固有名詞と普通名詞の違いについては稿を改めて論じる必要があると考えているが、ここでは、次

の指摘をしておく。「固有名は、記述にもどることなしには役に立たない」(Strauson; Ariell1990 p36 による) 点では、他の指示表現と同じである。テキストにおいてある指示対象にアクセスするという機能は、固有名でも定名詞でも同じことであり、この点で指示形式による違いはない。また、固有名と定名詞の境界の線引きは、簡単にはできないという Ariel (1990) の指摘もある。これは、たとえば、「あの蝶ネクタイの男」という表現がくり返し使われることにより、「あの蝶ネクタイ」または単に「蝶ネクタイ」に変化して、それだけで特定の人を指すようになる「蝶ネクタイが来るぞ」、という現象を考えると納得がいく。

- 3) “这+名詞句”より接近可能性の高いマーカーとして裸の名詞句のほか ta があるが、(12) (13) では ta は使用されていない。(12) では、“地震”がモノではあるが具体物ではないため ta (它) が使用されなかったと考えられる。(13) では、裸の名詞句“会晤”の代わりに ta を使用することはできない。なぜなら、ta で指示できる競合する先行詞候補“金大中”があり、ta を使用すると曖昧さが出てしまう。すなわち接近可能性が、ta を使えるほど高くないということになる。条件がそろえば“这+名詞句”のあとに ta の使用も可能である。

〈参考文献〉

- 西 香織 2000 「口語における三人称代名詞“它”の一考察」『中国語学』247
 山崎直樹 1993 「物語における三人称代名詞」『中国語学』240
 ———. 1994 「物語中の人物への言及の仕方とその変化」『中国語学』241
 陈平 1987 〈汉语零形回指话语分析〉《中国语文》1987-5
 木村英树 1990 〈汉语第三人称代词敬语制约现象的考察〉《中国语文》1990-5
 鲁健骥 1995 〈“它”和“it”的对比〉《中国语文》1995-5
 王志 1998 〈篇章代词‘它’用法探析〉《世界汉语教学》1998-3
 徐赳赳 1990 〈叙述文中‘他’的话语分析〉《中国语文》1990-5
 ———. 1999 〈叙述文中的名词回指分析〉《语言教学与研究》1999-4
 曹秀玲 2000 〈汉语“这,那”不对称性的语篇考察〉《汉语学习》2000-4

- Ariel, M. 1990 "Accessing Noun Phrase Antecedents." London & N. Y.: Routledge.
- van Hoek, Karen 1997 "Anaphora and Conceptual Structure", The University of Chicago Press, Chicago and London
- Langacker, Ronald W. 1987 "Foundations of Cognitive Grammar. Vol.1: Theoretical Prerequisites". Stanford: Stanford University Press.
- . 1991 "Foundations of Cognitive Grammar. Vol.2: Descriptive Application". Stanford: Stanford University Press

付記：本稿は、お茶の水女子大学に提出した修士論文に修正を加え、2000年7月の日本中国語学会関東支部例会で発表したものである。御指導下さった相原茂先生、発表時御意見をいただいた先生方、また御助言を下された大阪外国語大学山崎直樹先生に改めて感謝申し上げます。